

天塩町地域おこし協力隊 2020(令和2)年7月～9月活動報告

地域プロデューサー 久保 綾香

7月～9月は以下の5つの活動を行った。

1. 天塩町魅力発信ワークショップを通じた取り組み
2. ダンス指導
3. イベント・町内事業等の実施・実施支援
4. イベント・セミナー・研修等を通じた情報収集
5. その他

各項目の具体的な内容については以下の通り。

1. 天塩町魅力発信ワークショップを通じた取り組み

(1) SNS を利用したフォトコンテストの企画・開催

2020年9月18日(金)より、SNSを利用したフォトコンテスト「てしおってイイね!フォトコンテスト」の作品募集が始まった(2021年3月31日(水)まで)。今回のフォトコンテストについても、昨年「夕日と川」をテーマに開催された「てしお川インス『夕』映えフォトコンテスト」と同様に、SNSの活用を通じたまちの魅力発信について検討する「SNS活用ワークショップ」で協議・決定された。



フォトコンテストのチラシ

今回は天塩かわまちづくり協議会と天塩町観光協会の共催

とし、天塩町の魅力をより幅広く感じられる様な作品を募集することとなった。このフォトコンテストを通じて、天塩町の方々がまちの魅力を再発見し、それらを写真で発信したり、写真が切手になることでまちづくりに参加してもらうことを目指している。

2. ダンス指導

7月から9月にかけて、天塩町のストリートダンスサークルでダンス指導を行った。

7月は天塩町バレー少年団の練習に参加し、バレー練習の一部において、普段ダンスレッスンで行っているようなトレーニングを行った。バレーでの普段の練習とは異なる内容となるため、身体の使い方について新しい感覚を知ってもらったり、リズムを取り入れることでバレーのプレーの幅を広げることに役立てばと考えている。

8月からはダンスサークルの会員向けに個人レッスンも開始した。

9月中旬には上砂川町の地域おこし協力隊の方が活動の参考としてレッスンの見学に来られ、受け入れ対応を行った。今後上砂川町でダンスレッスンを行っていく予定とのことで、レッスンの参加体験だけでなく、実際にレッスンの指導も体験していただいた。ダンス等の

スポーツ教授にかかる情報共有や勉強会などは地域おこし協力隊の間でそれほど多く行われていないように見受けられる。今後も同様の活動をする協力隊と交流を続け、指導方法等について引き続き勉強していきたい。



バレー少年団でのダンスレッスン



上砂川町協力隊によるレッスンでの指導

3. イベント・町内事業等の実施・実施支援

天塩町の以下の事業の実施支援を行った。

- 「天塩町公認インスタグラマー」事業の食材調査・提案等（7月中旬）【実施支援】
- サイクルラックの製作【実施支援】

町が実施している地方創生事業の1つである「天塩町公認インスタグラマー」事業にて、提供する食材の内容や調理法等についての調査や、公認インスタグラマーのナヲ氏（Instagramアカウント名：nwoszki）への提案を通じて事業の実施支援を行った。今回の天塩町食材を使った料理は2020年7月31日のナヲ氏の投稿で見ることができる。

「オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト」（シーニックバイウェイ北海道 萌える天北オロロンルート主催）の一環として、天塩町観光協会と天塩町役場の協力のもと、サイクルラックの製作が行われた。地域おこし協力隊も製作活動に参加した。サイクルラックは、屋外用ラックを鏡沼海浜公園や道の駅てしおに、屋内用ラックをサンホテルに設置した。道北地域を周るサイクリストの方々にぜひ利用していただきたい。



ナヲ氏の天塩町食材を使った料理の投稿トップ



今回ナヲ氏に提供した魚介類



サイクルラック製作の様子



完成したサイクルラック

4. イベント・セミナー・研修等を通じた情報収集

参加したイベントやセミナー、研修等は以下の通り。

- ウェブセミナー「日本型地域活性化のアフリカ大陸での実戦」への参加@オンライン (7/14)

アフリカのケニアで JICA 海外協力隊を経験した女性が講師となり、現地での取り組みを通じて気づいた海外と日本の地域おこしにおける共通点やそこから得られる示唆などについてセミナーで発表を行った。JICA 海外協力隊は日本の地域おこし協力隊とは異なる制度であるが、互いの活動内容などから、それぞれの活動に役立てられるような学びや発見があると考えられる。昨今話題に上がることが多い「持続可能な開発 (SDGs : Sustainable Development Goals)」の概念は、国外のみならず国内でもそうした視点を持つことが重要視されてきている。今後も国内外の「地域おこし」や「まちづくり」の事例に目を向け、それぞれ (国内外) の視点や学びを共有できる場をつくっていきたい。

5. その他

- 留萌管内地域おこし協力隊のネットワーク立ち上げ・会議の開催（7/21）
- 「留萌管内協力隊ネットワーク」のオンライン会議の開催（8/27）
- かわまちづくり検討会への参加（8/7）
- かわまち SNS 分科会（SNS を活用した町の魅力発信について検討するワークショップ）への参加（8/7, 8/25, 9/3）
- 「きた北海道協力隊ネットワーク（KKN）」での活動（地域おこし協力隊向けのオンラインセミナーの開催、道北地域取材プロジェクトの開始等）

【留萌管内地域おこし協力隊ネットワークの立ち上げ・会議の開催】

留萌管内の現役地域おこし協力隊や協力隊 OB・OG、留萌振興局の関係職員、増毛町役場職員が増毛町で一堂に会し、増毛町内の現役協力隊・OG の活動現場見学会、留萌振興局主催の意見交換会、留萌管内の地域おこし協力隊のネットワーク設立に向けたキックオフミーティングが開催された。

これまで留萌振興局主催の協力隊意見交換会が毎年開催されてきたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、中止となった。その際に行われたアンケートから、協力隊ネットワーク設立に関する要望が挙げられたため、道北地域の地域おこし協力隊のネットワーク組織である「きた北海道協力隊ネットワーク」を運営している久保が、留萌管内の協力隊ネットワーク設立の取りまとめを行うこととなった。

会合は「増毛町の現役協力隊・OB の活動現場見学会」「留萌振興局主催 地域おこし協力隊意見交換会」「留萌管内協力隊ネットワーク（仮称）キックオフミーティング」で構成された。

活動現場見学会（10:30-12:00）では、増毛町の現役地域おこし協力隊である笠井氏の勤務先果樹園（秋香園）を訪問し、増毛町の果樹の特色や販売に関する現状、協力隊員の活動内容等について、園主の方を交えながら話を伺った。また増毛町協力隊 OG で、同町で新規就農（稲作）した嘉門氏の水田を伺い、取り組み内容や活動の進捗状況、今後の展望等について話を伺った。

留萌振興局主催の意見交換会（13:00-13:40）では、振興局からの情報提供（道が行う起業支援情報など）やネットワーク設立に関する意見交換が行われた。

留萌管内協力隊ネットワークのキックオフミーティング（13:45-17:00）では、現在隊員らがどのような課題を抱えているか、ネットワークの取組でどのようなことができたか良いかなどの洗い出しを行い、管内協力隊 OB・OG や留萌振興局の方々も交えて意見交換を行った。また新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今後はオンラインでのやり取りが増えることが想定されるため、オンライン会議のツールである Zoom 等の使い方についての説明も行った。

今後のネットワークの取り組みとしては、参加するメンバーの悩みや困りごと、活動情報などを共有し、それぞれのメンバーの活動をより良いものにし定住を促進できるような場をつくっていくことを第一目的とすることにした。また、活動の中でメンバーが興味を持っていることや実施してみたいイベント・事業などがあれば、希望者を募って企画・運営等を行っていくこととなった。あくまで、所属するそれぞれのメンバーの希望する参加度合いに応じて自由に参加できるような場にしていくことを目指す。

8月下旬にはオンライン会議を開催し、Zoomの使用練習や今後の活動についての協議を行った。

【きた北海道協力隊ネットワーク（KKN）での活動】

9月10日に、第二回となる地域おこし協力隊向けのオンラインセミナーを開催した。今回のセミナーのテーマは「キッチンカーで起業する！」とし、昨今飲食業の中でも注目を集めている「キッチンカー」の形態での飲食業開業について学ぶ内容とした。講師は現役の地域おこし協力隊だけでなく、学生時代にクラウドファンディングで起業された方や、YouTubeでキッチンカー開業に関する情報発信やコンサルティングまで手掛けている方など、さまざまなバックグラウンドを持つ方に参加して頂いた。今後も、協力隊員だけでなく、他業種の方々も交えた交流や学びの場をつくっていききたい。

また、KKNの新しい活動として、道北地域で興味深い取り組みをされている地域おこし協力隊や民間、地域の方々を取材するプロジェクトを開始した。取材した内容はKKNのメンバーが動画にまとめ、KKNのYouTubeチャンネルで公開・発信していく。家で過ごす時間が多くなり、外出する機会が少なくなった昨今、動画を通じて道北地域の魅力を道内外の方々を知って頂いたり、インタビューを受けた方のPRにつながればと考えている。



現役協力隊の勤務先（秋香園）の見学の様子



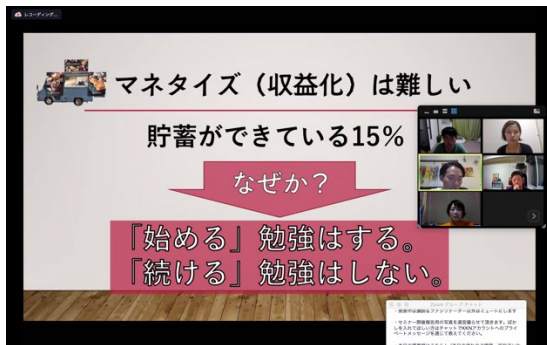
協力隊OGが稲作を行う水田の見学の様子



留萌振興局主催の意見交換会の様子



留萌管内協力隊ネットワーク（仮称）
キックオフミーティングの様子



KKN オンラインセミナーの様子



KKN 取材プロジェクトの様子

【新聞記事】

17 地域の話題 2020年(令和2年)7月8日(水曜日) 北海道

天塩町職員ら製作

自転車観光振興へ専用ラック



【天塩】自転車による体験型観光の振興を図ろうと、町職員らが6日、宿泊施設などで自転車を安全に保管する木製のサイクルラックを鏡沼海浜公園で製作した。

道路景観を生かした「シーニックバイウェイ」の一環として、留萌管内を巡る「明える天北オロロンルート」の魅力向上につなげる。自転車用ラックは、ホテルなどに宿泊する際、屋内に設置されたラックに自転車を保管することで盗難や雨風を防ぐほか、屋外のラックに自転車をセットすることで、自転車の状態チェックが容易になるなどの利点がある。

作業には職員や地域おこし協力隊員ら7人が参加。強い日ざしの下、木材に防水や防カビ効果のある塗料を塗り、のこぎりで切り分けるなどして作った部材を組み立てた。

この日は、屋内用と屋外用計7基のラックを製作。

町内のライダーハウスやホテルなどに設置される。町職員の一人は「自転車用ラックの設置場所を増やして、天塩は自転車愛好者に優しい町と言われるようにしたい」と意気込んでいる。(高橋力)

留萌の農業事例紹介

【羽幌】留萌振興局主催の「地域農業つくり懇談会」がJAオロン地域農業振興センターで開かれ、留萌農業改良普及センターが管内農業の新たな取り組みなどを報告した。

普及センターの活動に理解を深めてもらおうと毎年実施しており、今年も2日

に開催した。留萌指導農業士・農業士会、農村女性ネットワーク、オロン、遠別農業高、町内の飲食店のオーナーシェフら、関係者22人が参加した。

同センター職員5人が地域での活動内容などについて紹介した。

初山別村で冬期間、ハウスで小松菜や水菜、春菊などの野菜栽培に取り組み、冬期間の所得確保につながっている事例や、遠別町内で天然色素を抽出するためにサツマイモを栽培し、主産地の九州地方と同等以上の色素収量が見込まれている事例などが報告された。

意見交換で参加者からは「安全安心で生産者の顔が見える地場産野菜を使いたいので、農家と飲食店を橋渡ししてほしい」「地場産

ハウスで小松菜／サツマイモ色素抽出

2020年7月8日(水)北海道新聞朝刊に掲載

地域おこししますまず3町村11人が自主運営、情報共有

協力隊員ネットワーク設立

留萌管内 悩み、アイデア寄せる

【増毛】留萌管内の各市町村で働く地域おこし協力隊員を結ぶネットワークの設立会議が21日、増毛町文化センターで開かれた。隊員10人が初めて顔を合わせ、それぞれの地域での仕事の状況や悩み、地域おこしのために今後「やりたいこと」などについて、車座になって話し合った。

(吉川幹弘)

ネットワークは、管内の隊員同士が情報共有や交流を通じ、活動の円滑化や任期終了後の定住をしやすいのが狙い。初年度は増毛町、初山別村、天塩町の隊員11人が所属して自主運営し、留萌振興局も活動を積極的にサポートする。名称はまだ決まっていない。

会議では、天塩町の隊員で、道北の地域おこし協力隊員らでつくる「きた北海道協力隊ネットワーク」の事務局長も務める久保綾香さん(30)が進行役を務めて意見交換。車座になり、ホワイトボードに「やりたいこと」を書き出して話し合った。

ある隊員は「地域での活動をするにあたり、他の隊員が何をしているかを知りたい」と発言。インターネットや会議を通じた情報共有の必要性を確認し合った。別の隊員からは「自治体から任せられる仕事が忙しく、労働力としての期待が大きくて地域おこしの活動ができない」といった悩みが明かされ、「住民や役場に活動を理解してもらう必要がある」といった意見も出た。

活動については、観光客に豪雪地帯を楽しんでもら



ネットワーク設立会議で意見を出し合う隊員ら

う冬場のキャンプ体験や、札幌など都心部での地場産品販売会などのアイデアが話し合われた。

ネットワークは今後も定期的に会議を開き、活動計

画の作成や企画の立ち上げを行う。隊員の居住地が離れていることから、インターネットを通じてのオンライン会議も積極的に活用する考えだ。

2020年7月22日(水)北海道新聞朝刊に掲載

日刊留萌新聞

2020年(令和2年)
7月23日 木曜日

発行所/株留萌新聞社 〒077-0007 留萌市栄町2丁目8-23 電話(0164)42-5555 FAX(0164)43-5550

北東の風、
強く、曇
夕方雨で

18時/16-24時
0%/10%)
、最高気温24℃

管内の協力隊員が連携

留萌振興局 ネットワーク構築へ協議

留萌振興局主催の地域おこし協力隊意見交換会が、21日午後1時から増毛町文化センター2階中ホールで開かれ、振興局の担当職員が協力隊員の卒業後に起業・創業などの支援策について情報提供したほか、留萌管内協力隊ネットワーク(仮称、キックオフミーティング)として、隊員相互が連携して取り組む管内初のネットワーク構築に向けて活動内容などについて協議した。



管内初のネットワーク構築に向けて活動内容などについて協議した地域おこし協力隊員ら

意見交換会は、管内の協力隊員同士やOB・OGとの交流・情報交換を通じて協力隊活動の円滑化、任期終了後の地域への定着を促進するとともに、関係者相互の親睦を深めることを目的に年一回開かれている。この日は協力隊員、事務局の振興局、開催地の増毛町役場の職員ら合わせて16人が出席。開会に当たり、振興局の沖野洋副局長が「隊員の皆さんが互いに抱える悩みや活動のヒントなどについて話し合い、われわれにできることがあれば協力・連携していきたい」とあいさつ。地域創生部の赤坂誠司部長が、協力隊を卒業したあとの起業や創業、地域づくりに役立つ支援策やサポートセミナーについて、資料を交えながら主催団体別に概要を解説した。

休刊のお知らせ

「海の日」の23日は本誌です。24日付の新聞はご了承ください。

出席者の自己紹介に続いて行われたキックオフミーティングでは、発起人となった天塩町協力隊員の久保綾香さんが「協力隊のメンバー1人1人が主役となる活動を推進し、より良い活動で移住定住の促進に努めたい。地域振興に貢献するため、できることに取り組んでいく」と述べ、何のために活動するのか、誰のために活動するのか、またどのように組織を動かしていくのかといった組織のあり方について、道北地域の地域おこし協力隊でつくる

計画の実施状況確認

委員に任命書交付

令和2年度第1回留萌市市介護保険運営協議会が、20日午後6時半から市保健福祉センター1号ホールで開かれ、委員8人のうち出席した6人に任命書が交付されたほか、会長に野原正好さん、副会長に菊地美佐子さんが再任された。中西俊司市長は、委員一人一人に任命書を手渡し



留萌市

「また北海道協力隊ネットワーク」などの事例を交えながら説明。意見交換では「活動に当たっては地域に『足りないもの』をあぶり出すことが必要」、「イベントなども企画倒れに終わらず、最後まで行われることがあまり多くない。いろんなノウハウや実績を共有し、活動を形にするための手掛かりがほしい」、「新たに協力隊員になる人も、活動に当たって悩むこともあると思う。活動の軌跡をアーカイブとして残すことで、任期

【広報誌】「受け継ぎたい北海道の食」動画コンテスト 入賞作品について



月刊「学校給食」2020年6月号



広報誌「文化情報」vol.380

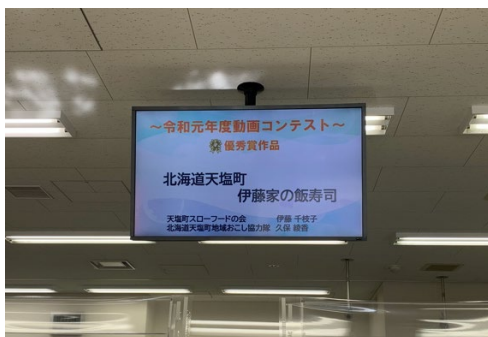


「学校給食」掲載誌面



「文化情報」掲載誌面

【映像メディア】「受け継ぎたい北海道の食」動画コンテスト 入賞作品について



「受け継ぎたい北海道の食」動画コンテスト 入賞作品の北海道銀行本・支店のモニターでの配信 (写真は天塩支店)

以上